

ぬかた便り

岡崎市立額田図書館

秋号 No. 36

2015年9月発行

秋の虫が鳴き始め、日が落ちるのが少しずつ早くなってきました。

さて、秋号では額田地域で語り伝えられてきた『ぬかたの民話』(A388 ヌN)から「小太郎岩」のお話をご紹介します。

『小太郎岩』(檜山の民話)

昔、檜山に市川小太郎という力持ちが住んでいました。あるとき、小太郎は人の背丈ほどもある一枚岩を背負って帰り、小川の橋にしました。小川を往来する村人たちは大変喜び、江戸時代の渥美の歌人磯丸はこの話に感心して、「世々へても強き力は名と共に 石に残れる人のおもかけ」と詠んだそうです。この歌は、同じ檜山にある小太郎橋近くの石碑に刻まれています。

(写真右)



「世々へても～」の石碑



小太郎の墓と「世にのこる～」の石碑

また、額田図書館から檜山駐在所へ下る道の途中にある墓は、小太郎の墓だと伝えられています。

(写真左：中央)

墓のそばには「世にのこる君がちからに引かれきて 言葉の花をたむけてぞ行く」という石碑も残っています。この歌は小太郎の墓のことを聞いた磯丸が詠んだものです。

(写真左：右端)

力持ちの小太郎は、今も郷土の英雄として人々から親しまれ、昔話として語りつがれています。